

また今回は参加費と発表料を分離し、院生・シニア会員の参加費を大幅に引き下げる予定であるので、周囲へ参加のお声がけにご協力いただきたいとのこと。なお新型コロナウイルスが6月末で状況に大きな変化がなければそのまま対面開催として準備をすすめる。7月以降も必要に応じて開催形態の再考を行う。

これに対し、最近では学生もオンラインでの発表に慣れてきており現地へ足を運ぶメリットを説明できるようにするとよい、対面の口頭発表とオンラインポスター発表の日程を切り離すと参加者が少なくなる可能性がある、ポスター発表については対面会場においてフラッシュトークを設けてはどうか、などの意見が出された。今後行事委員会を中心にさまざまな可能性を検討していくことになった。

### 監事報告

岩部監事より以下のコメントがあった。

早稲田大会の開催について活発な議論が行われ、たいへん良いことと思う。総会でも話題に挙がった代議員の人数構成等の問題については今後は是非議論をしていただきたい。

以上、この議事録が正確であることを証するため、議長、副議長及び出席監事・理事は次に記名・捺印する。

2022年6月20日  
一般社団法人日本地質学会  
理事会議長：芦 寿一郎  
理事会副議長：小松原純子  
前任代表理事：磯崎行雄  
代表理事：会長 岡田 誠  
監事：岩部良子  
監事：山本正司  
理事：出席理事名（省略）

## 一般社団法人日本地質学会 2021年度第11回執行理事会議事録

日程：2022年4月9日（土）10:00～13:00

### 【WEB会議】

出席：磯崎行雄・佐々木和彦・平田大二・中澤 努・岡田 誠・ウォリス サイモン・大藤 茂・緒方信一・狩野彰宏・亀高正男・小宮 剛・坂口有人・高嶋礼詩・辻森 樹・星 博幸・松田達生・矢部 淳

欠席：なし

事務局 澤木

\*定足数（過半数：9）に対し、17の出席

\*前回議事録（21-10回）確認

### 報告事項

1. 全体的報告

・2022年度の科研費申請は120万円で採択さ

れた。

2. 運営財政部会（緒方・亀高）

1) 総務委員会

<共催・後援依頼、他団体の募集、連絡等>

・第13回（令和4年度）日本学術振興会育志賞候補者推薦依頼（学会締切：5/13）

・2022年度藤原セミナー募集開始時期延期の連絡：例年4-7月で募集をおこなっているが、コロナ感染状況を鑑みて募集開始時期を2022年は9月まで延期する。

・産業技術総合研究所地質調査総合センター令和4年度体制のご連絡（センター長：中尾信典氏ほか）

・一般社団法人資源・素材学会より新役員就任のご連絡（会長：朝日 弘氏ほか）

・地学団体研究会より声明「ロシアによるウクライナ侵攻に強く抗議する」（2022年3月22日付）の送付があった。

・令和4年科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞の受賞決定通知があった。日本地質学会推薦「防災減災から地域振興につながる地質情報の普及啓発」（斎藤 眞会員ほか3名）。

<会員>

1. 今月の入会者（9名）

正（院生割）会員（8名）：二村康平・竹林知大・谷元瞭太・夏目 樹・山川桃佳・松山和樹・新山桃乃・福井堂子

正（学部割）会員（1名）：佐藤瑠晟

2. 今月の退会者

2021年度末退会者：91名、除籍者：62名

3. 今月の逝去者（なし）

4. 2022年3月末会員数

賛助：27、名誉：38、正会員：3142 [正3021、院割113、学部割8] 合計3207（昨年比-77）

5. 2022年度50年会員顕彰者（44名）

池田保夫・石井久夫・伊藤谷生・井上正澄・今岡照喜・宇野泰光・大竹敏則・大橋俊夫・香川重善・狩野謙一・栗田光雄・小出和男・河野忠臣・小林武彦・小宮 学・紺谷吉弘・近藤直門・柴田秀道・白石和行・鈴木達郎・須藤 茂・傍島武師・田北 廣・津村善博・徳橋秀一・中屋志津男・成尾英仁・西田高久・西村 昭・西脇二一・長谷川四郎・林隆夫・原田憲一・東野外志男・平社定夫・牧本 博・松本 良・丸山茂徳・宮城晴耕・山崎晴雄・山崎安正・湯浅真人・吉田克史・吉田光廣

<会計>

・男女共同参画学協会連絡会第20期の分担金請求10,000円があった（地質学会オブザーバー学協会会員）。

<その他>

・クラウドシステムの状況：事務局で管理画面のテスト中。5月中旬に運用開始予定。

3. 広報部会（坂口・小宮）

1) 広報委員会（坂口）

特になし

4. 学術研究部会（辻森・ウォリス・星）

1) 行事委員会（星）

・2023年（近畿支部担当、会場：京都大学）大会の実行委員会メンバーを改めて確認した（委員長：山路 敦（京都大）、事務局長：佐藤活志（京都大）、巡検委員長：三田村宗樹（大阪市大）、巡検案内書編集委員長：里口保文（琵琶博）。また2022年9月までに巡検コース案を決定していただく。その他の詳細についても近畿支部およびLOCと相談して準備を進める。

・2024年（東北支部担当）大会は、山形大学小白川キャンパスで実施する。実行委員会委員長：伴 雅雄（山形大）、事務局長：本山 功（山形大）、巡検委員長：加々島慎一（山形大）、巡検案内書編集委員長：山崎誠（秋田大）。

2) 専門部会連絡委員会（辻森）

・理事会報告の確認

3) 国際交流委員会（ウォリス）

・3月22日に2024 IGC37巡検の問題については韓国側と話し合ったが、進展はなかった。韓国側は日本での巡検は実施しないという可能性も示唆している。

・ロシア学長連合が、ロシア大統領支持声明を出したことを背景に、EGUではロシア機関経由の支払いを受け付けないことを決めた。すでに受け取った参加費はウクライナ援助のために寄付することとなった。JpGUでは、年大会へ参加する人はJpGU leadershipが出したウクライナに関する声明に賛同することを意味すると説明した上で、従来通り国籍や所属機関に関係なく参加を認める予定。

4) 地質標準化委員会（辻森）

特になし

5) 選挙管理委員会（中澤）

・理事会報告の確認

5. 編集出版部会（大藤・狩野）

1) 地質学雑誌編集委員会（大藤）

(1) 編集状況報告（2022年4月7日現在）

・2022年投稿論文：30 [内訳] 論説12（和文11、英1）、総説4（和文4）、ノート1（和文1）、レター5（和文4、英1）、フォト1（和文1）、巡検案内書7（昨年比+20）

査読中：42、受理済み：6

・128巻：公開済み4、入稿・校正中6、

2) アイランドアーク編集委員会（狩野）

・理事会報告の確認

3) 企画出版委員会（小宮）

特になし

6. 社会貢献部会（松田・矢部・高嶋）

1) 地学教育委員会（高嶋）

・理事会報告の確認

2) 地質技術者教育委員会（佐々木）

特になし

3) 生涯教育委員会（矢部）

・理事会報告の確認

4) 地震火山地質こどもサマースクール（松田）（←審議事項へ）

5) 地質の日（矢部）

・理事会報告の確認

7. その他執行理事の下に設置される委員会

- 1) 利益相反マネジメント委員会 (中澤)  
特になし
8. 理事会の下に設置される委員会
  - 1) ジオパーク支援委員会 (委員長天野: 代理平田)  
・理事会報告の確認
  - 2) 地学オリンピック支援委員会 (高嶋)  
・理事会報告の確認
  - 3) 支部長連絡会議 (平田)  
特になし
  - 4) 地質災害委員会 (松田)  
特になし
  - 5) 名誉会員推薦委員会 (佐々木)  
・理事会報告の確認. 候補者の推薦文は総会上程のためさらに整える.
  - 6) 各賞選考委員会 (中澤)  
・理事会審議事項の確認
  - 7) ジェンダー・ダイバーシティ委員会 (委員長堀 利栄)  
・理事会審議事項の確認
  - 8) 連携事業委員会 (中澤)  
特になし
  9. 研究委員会
    - 1) 地質環境長期安定性研究委員会 (委員長吉田英一)  
特になし
    - 2) 南極地質研究委員会 (委員長 小山内康人)  
特になし

#### 審議事項

1. 2022年度地震火山地質子どもサマースクール予算と学会負担金の追加支出について  
ハイブリッド開催のための準備・下見などで予算超過が見込まれるため、3学会での等分の追加負担の要請があった。結果的に追加負担となることはやむを得ないが、宿泊(1泊)イベントとしては参加費の設定が安すぎる。運営体制・方法にも問題があるのではないかと、サマースクール実行委員会へは参加費の見直しやスタッフ交通費の減額などさらなる経費削減の努力をお願いし、受益者負担を原則とした経営努力を求めた。
2. 早稲田大会における執行理事会提案のシンポ2件については、詳細が詰り切れていないため、途中経過を理事会で報告し、継続審議とする。結果をメールで理事会へ報告し了解を頂くこととする。
3. 理事会議事、資料の確認を行った。

以上

2022年5月14日  
一般社団法人日本地質学会  
執行理事会  
会長(代表理事)磯崎行雄  
署名人 執行理事 中澤 努

## 一般社団法人日本地質学会 2021年度第12回執行理事会議事録

日程: 2022年5月14日(土) 13:00 ~ 17:30  
【WEB会議】

出席: 磯崎行雄・佐々木和彦・平田大二・中澤 努・岡田 誠・ウォリス サイモン・大藤 茂・緒方信一・亀高正男・小宮 剛・高嶋礼詩・辻森 樹・星博幸・松田達生, (監事) 山本正司・岩部良子

欠席: 狩野彰宏, 坂口有人, 矢部 淳  
事務局 澤木

\*定足数(過半数: 9)に対し, 14の出席  
\*前回議事録(21-11回)確認

#### 報告事項

1. 全体的報告
  - ・学会活性化に関わる会費などの変更に基づく、定款および運営規則の変更内容を会員へ周知するため、「学会活性化に関わる会費などの変更についてのご提案(第2回)」を学会HPに掲載した。総会までの期間に会員への周知に努める。
  - ・JpGU方地質学セッション(地質学会共催)への参加外国人来日のため、地質学会が受け入れ責任者となって、ビザ取得等の申請手続きを行うこととなった。例年主催者であるJpGUが担っているが、コロナ禍での外国人受入れ業務量に対応しきれないため、今年は共催等関連学協会に対応してほしい旨、世話人から依頼があった。実質の手続きは世話人を中心に進める。
2. 運営財政部会(緒方・亀高)
  - 1) 総務委員会  
<共催・後援依頼, 他団体の募集, 連絡等>
    - ・北海道立総合研究機構 産業技術環境研究本部 エネルギー・環境・地質研究所より新所長就任のご連絡があった。(所長: 大津 直氏)
    - ・石灰石鉱業協会より、令和4年度新役員就任のご連絡があった。(新会長: 小山 誠氏)
    - ・山田科学振興財団2025年度開催国際学術集会開催援助申請募集の案内(申請期間: 22/4/1-23/2/28)
    - ・第11,12回惑星地球フォトコンテスト入賞作品展(蒲都市生命の海科学館・日本地質学会共催; 22/1/21-4/10)の事業実施報告があった。入場者5516名。
    - ・青少年のための科学の祭典2022(22/6/11-23/3/26; 全国49会場)より後援名義使用の依頼があり、承認した。
    - ・第65回粘土科学討論会(22/9/7-8; 鳥根大学)より協力依頼があり、後援を承諾した。
    - ・三浦半島活断層調査会(代表: 茅野教幸氏)より地質の日記念行事「深海から生まれた城ヶ島」観察会(22/6/12)への後援

依頼があり、承諾した。

- ・朝日新聞社より「JSEC2022(第20回)高校生・高専生科学技術チャレンジ」(募集期間: 22/9/2-10/4)に関する後援名義使用の依頼があり、承諾した。
- ・第11回ヒマラヤ実習プロジェクト(2023年3月実施予定)より、事業に対する推薦の依頼があったが、コロナ禍での公衆衛生の状況、海外渡航等は未だ予測が難しい状況であるため、今回は推薦しないこととした。
- ・日本地球惑星科学連合 第26回学協会長会議(5/30, zoom開催)の開催案内があった。磯崎会長出席予定。

<会員>

1. 今月の入会者(10名)  
正会員(1名): 小椋隆馬  
正会員(院生割)(8名): 平井智望, 高見澤駿, 上村真優子, 成田佳南, 谷脇由華, 吉岡郎, 竹山翔悟, 高山 隼  
正会員(学部割)(1名): 多久和 隼
  2. 今月の退会者(2名)  
正会員: 友岡洋介, 篠原良彰
  3. 今月の逝去者(1名)  
正会員: 小宮 学(逝去日: 2022年4月29日)
  4. 2022年4月末会員数  
賛助: 27, 名誉: 38, 正会員: 3158 [正: 3098, 院割: 57, 学部割: 3] 合計: 3223 (昨年比-72)
- <会計>
- ・
- <その他>
- ・クラウド会員システムについては、5月末に会員向け公開を目指し実装試験中。
  - 3. 広報部会(坂口・小宮)
    - 1) 広報委員会(坂口, 代理小宮)
      - ・フォトコンテスト入選作品展展示会(5/3-5/15; 上野公園)を開催中。
      - ・ジオルジュ 2022前期号が刊行された
      - ・ニュース誌投稿原稿への委員会対応に対して異議申し立てがあった(→審議事項へ)
    4. 学術研究部会(辻森・ウォリス・星)
      - 1) 行事委員会(星)
        - ・2023年学術大会(京都大: 近畿支部担当)の会場予約, 巡検コース検討などの準備が進行中。巡検の他にワークショップも1~2件行う予定。会場使用料がやや高額になる見込み。
        - ・「地質学露頭紹介 at JpGU2022」(5/29オンライン開催)の発表申込を5/16(月)まで延長した。
      - 2) 専門部会連絡委員会(辻森)  
特になし
      - 3) 国際交流委員会(ウォリス)
        - ・IGC巡検についての韓国とのミーティング(第3回)を実施。First circular が出る前の6月中に結論を出す方向で継続審議。
      - 4) 地質標準化委員会(辻森)  
特になし
      - 5) 選挙管理委員会(中澤)  
特になし

## 5. 編集出版部会 (大藤・狩野)

### 1) 地質学雑誌編集委員会 (大藤)

#### (1) 編集状況報告 (2022年5月11日現在)

・2022年投稿論文: 43 [内訳] 論説20 (和文19, 英1), 総説5 (和文5), ノート4 (和文4), レター4 (和文3, 英1), 報告1 (和文1), フォト1 (和文1), 巡検案内書8 (昨年比+27)

査読中: 42, 受理済み: 6

・128巻: 公開済み6, 入稿・校正中5

### 2) アイランドアーク編集委員会 (狩野, 代理辻森)

・引き続き原稿投稿を呼びかけている。また日本人査読者の査読拒否のケースが目立つので、ぜひご協力をいただきたい。

### 3) 企画出版委員会 (小宮)

特になし

## 6. 社会貢献部会 (松田・矢部・高嶋)

### 1) 地学教育委員会 (高嶋)

特になし

### 2) 地質技術者教育委員会 (佐々木)

・早稲田大会における業界研究サポートサービスは、学生・院生は学術大会参加者でなくても、参加可能とする。その際、学術大会参加者ではないことが明確に分かるよう名札などで区別する。

・高校生へのJABEE普及ポスター: 今年度も作成・配布予定。7月初旬発送を目指す。

・地質系卒業・修了生の就職動向調査: 調査結果現在集計中。

・キャリアビジョン誌2022: 年度末刊行予定で準備を進める。

・第3回JABEEオンラインシンポジウム: 開催報告記事をニュース誌5月号に掲載予定。

・地球・資源分野JABEE委員会: 4月に新体制が発足した。本委員会メンバーの金川、坂口、竹内、細矢、亀高、佐々木が出席。

### 3) 生涯教育委員会 (矢部)

・地質学会ニュースに「博物館で地学を学ぼう!」の連載を継続している。5月号は横須賀市自然・人文博物館の柴田健一郎学芸員に寄稿いただいた。

### 4) 地震火山地質こどもサマースクール (松田)

・今年度開催予定の浅間大会の下見経費35,894円について、地質学会としてはすぐに支払うことはできないと回答した。サマースクールの実施後(収支確定時)に赤字となった際には補填を検討することもやぶさかではない。また今後のスクール運営体制の見直し、改革を運営委員会に働きかけていく。

### 5) 地質の日 (矢部)

・地質の日事業推進委員会(委員長: 平田副会長)のポータルサイトで30件を超えるイベント(デジタルコンテンツは80件超)の広報が行われた。

・オンライン一般講演会を5/8(日)に実施した。ライブ配信中の最大視聴数は148で、5/9現在で総視聴数617回。講演後、演者からは聴衆の顔が見えるような形(ハイブリ

ッド)のほうがやりやすいという意見があった。

・5/14(日)に日本応用地質学会との共催で『街中ジオ散歩ミニin Tokyo「国分寺崖線」』を実施すべく4/8-15に募集を行い、15名の応募があった(募集人数15名。うち会員2名)。

### 7. その他執理事務会の下に設置される委員会

#### 1) 利益相反マネージメント委員会 (中澤)

特になし

#### 8. 理事会の下に設置される委員会

#### 1) ジオパーク支援委員会 (委員長天野: 代理平田)

特になし

#### 2) 地学オリンピック支援委員会 (高嶋)

特になし

#### 3) 支部長連絡会議 (平田)

特になし

#### 4) 地質災害委員会 (松田)

特になし

#### 5) 名誉会員推薦委員会 (佐々木)

・総会用資料(候補者推薦文)確認行った。

・誤字等最終修正の上総会にはかる。

#### 6) 各賞選考委員会 (中澤)

特になし

#### 7) ジェンダー・ダイバーシティ委員会 (委員長堀 利栄)

・学術大会でのEDS,ECSロゴ付与について、急ぎ会員への周知を進める。

#### 8) 連携事業委員会 (中澤)

特になし

#### 9. 研究委員会

#### 1) 南極地質研究委員会 (委員長 小山内康人)

特になし

## 審議事項

### 1. 早稲田大会関連 (星)

・早稲田大会執理事務会提案シンポジウムについては、「人新世における地質学: 年代境界・物質境界研究のフロンティア」(世話人: 川幡穂高・磯崎行雄)を承認し、LOC提案シンポとも一般公開・対面実施することとした。

・新型コロナウイルス感染症のため大会参加キャンセルを申し出た者への対応を検討した。

① 対象となるのは、新型コロナウイルス感染症の陽性者または濃厚接触者、検査待機中の方。それ以外の理由によるキャンセルについては、学会キャンセルポリシー及び規定の取消料に従って対応する。

② 対象者から連絡があった場合、演題登録の有無等により一部返金を行う。返金した場合は、オンライン発表(e-poster)へのアクセス権もなくなる。対応の内容は大会HPに明記し、参加者へ周知する。

③ 陽性反応や濃厚接触者になったと連絡があった場合は、そのことを示す証拠(メールや電話があった事実などでOK)の提示を連絡者に求める。

・大会キャッチフレーズの提案について

① 2023年大会から、大会キャッチフレーズは必要に応じて学会本部が提案することとする。

② 大会LOCには、市民講演会などの宣伝用フレーズを必要に応じて提案してもらう。

### 2. ニュース誌投稿記事への対応について

・ニュース誌投稿記事に対して、広報委員会が一部内容が不適切と判断し、著者へ修正を要請したが、不服として異議申し立てがあった。原稿と申立て内容を執理事務会で確認した。今後の対応については継続審議とする。

## 監事コメント

・(山本監事) ニュース誌投稿原稿に関する異議申し立てについては、会員の権利を損なわないよう、手続き上問題のないように検討・対応を進めていただきたい。

・(岩部監事) 他団体(特に任意団体)からの後援等協力要請への対応については、学会としての明確な基準を設ける方が良い。

以上

2022年5月27日

一般社団法人日本地質学会

執理事務会

会長(代表理事) 磯崎行雄

署名人 執理事務 中澤 努